

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102814		
法人名	社会福祉法人 みその		
事業所名	みそのホーム・グループホーム		
所在地	秋田市寺内蛭根二丁目6/34		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みそのホームが家庭的な温かい雰囲気の中で地域の方々と交流しホームの行事に参加して頂き楽しめます。看取り介護は本人が住み慣れたみそのホームで自然のまま生涯を終える事に寄り添います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みそのホームには、グループホームをはじめとして、小規模多機能型の介護施設とデイサービスセンターが併設されている。3年前に建て替えられたみそのホームには、広い駐車場が備えられており、時折相談に応じ地域住民の車が駐車されることもある。運営推進会議での意見から、非常災害時の気付きや避難方法を再考するきっかけとなった。みそのホームと地域の行事等の情報交換も行われ、有意義に機能していることが確認できた。毎月実施される認知症等に係る職員研修は、職員の意識向上の後押しとなり、充実した看取り介護の提供に結びついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム入口に「掲示し感謝、喜び、安心」という理念のもとに職員が共有し実践している。	理念をわかりやすく表現したサブタイトルのような文章を、職員が作成し掲示するなどして、共通理解ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買物、外食時など地域の方々との関わりがある。	広報紙「みそのだより」を近隣町内会へ配布し、事業所のさらなる周知に努めている。今年度は、地域で開催する七夕まつりへ参加したり、事業所主催のみそのまつりに町内の方々が集まるなど、往来がある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	見学、申込時など不安、悩みに対し答えている。 日赤短大、日赤看護大学の実習を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回定期的開催している。 参加者からの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、グループホームと同じ建物内にある小規模多機能型介護施設と合同で実施している。地域の代表者から、非常災害時における断水のおそれや町内会全体の高齢化の指摘があり、避難体制づくりを検討するきっかけとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターにサービス状況を伝え協力関係に努めている。	包括支援センターの職員が、運営推進会議に欠かさず出席し、随時、情報交換が行われ、その中から利用につながることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はすぐ道路があるためやみを得ず施錠している。	身体拘束防止や権利擁護等研修を通じて、正しく理解している。毎月認知症に係る研修を開催し、利用者の理解に取り組み、より良いケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めケアを見直し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加し情報共有し活用出来るよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの不安、疑問はその都度対応し納得して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加して頂き意見を反映したり意見ノートを用意している。	法人として各所で運営する事業所の苦情等を年度ごとに、ホームページ上で公開する仕組みがある。事業所における意見等は、書き込み専用のノートや面会時に聞き取るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを開きカンファレンスノートに意見を書き入れ反映している。	月に1回開催される各部署の職員会議や主任等が参加する全体職員会議において、利用者と業務に関する意見の交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より意見をもらい全体職員会議で反映して努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を積極的に受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市ケアパートナーズによる相互訪問、研修、作品展に参加しネットワークを構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を必ず行い不安、悩み、要望を聞き安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や契約時に不安、要望を良く聞き関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、縫物、洗濯たたみなど日常生活で出来る事を一緒に行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は自由にして頂きゆつくりと会話出来るよう家族室も用意している。 行事等にも参加の声掛けをしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの公園、スーパーなどに立ち寄っている。	利用者の要望や状態に合わせて、友人との手紙のやりとりや来訪を支援している。また、家族の協力があり、お盆等に外泊や外出できることがあり、馴染みのある関係性の維持に取り組んでいる。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、一緒に制作、活動したり行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年一回開催している法要ミサに招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、本人に意向を聞き介護計画に活かしている。	家族と本人から聞く生活歴と事業所での会話の話題、表情等を合わせて、意向をくみ取るよう努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活歴などを聞き把握している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活から変化に気付き、連絡ノートに記録して現状を把握している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを行っている。	居室毎に担当職員を決め、利用者の把握に取り組んでいる。計画作成時には、それぞれの職員が知る日常や必要と思われる事柄等を参考に計画作成担当者を中心となり作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、申し送りで気付いた事を共有して実践している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパー、医院、公園などに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先して内科、眼科、整形外科などを利用している。 受診出来ない方は往診で対応している。	定期通院は可能な限り家族の付き添いで実施している。その際には、事前に病院の看護師へ利用者の状態を電話にて伝達したり、家族に記録の抜粋を持参していただき対応している。歯科やかかりつけ医が往診可能な場合は、それを活用することもある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部所の看護師と連携をとり支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、相談員と連携をとり情報交換を行い早期退院が出来るようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム開所当初から看取りを実践し協力医、家族、職員がチームとして支援している。	「医療連携体制に関する指針」において看取り介護の項目があり、家族と話し合い同意を得ている。利用者の状況について、協力医から家族へ直接説明があり、その内容は職員間でも共有している。状態に応じて検討し、本人らしさをサポートしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、急変時のマニュアルがあり訓練を行っている。研修にも参加している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回、避難訓練、年一回消防立ち合いで夜間想定の実践訓練を行っている。	町内会長が避難訓練の様子を見学する機会があり、そこでの助言から担架を購入し様々な避難方法を職員が試しながら模索している。非常災害時の備蓄品について、賞味期限等から今年度買い替えを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉遣いには普段から気を付けている。	居室で過ごしたいという利用者の気持ちを尊重し、適度な見守りのもと、それぞれの時間を過ごしてもらっている。また、家族等の面会時には家族室という別室の利用を促す等している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を会話の中から知ったり家族より情報を得ている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたり、本人の希望を優先し、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用に化粧を用意したり行事の時や外出時、化粧や好みの洋服を着て頂いたりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のさいは盛り付け食器拭き、テーブル拭きを手伝ってもらっている。 土曜日に買物と一緒に出掛けている。	訪問日はきりたんぼ会で、利用者が集まる卓上で調理され、味見や具材の柔らかさの会話で和気あいあいとしていた。月曜日から土曜日は、事業所内の厨房で調理された食事が運び込まれ、それを利用者と一緒に提供している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック、水分量チェックをして必要量摂れるよう把握に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日、毎食行いポリデント介助等行っている。 歯科往診の方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成してパット、オムツの使用量を減らすなどしている。	退院後には、以前よりも利用者のできる範囲が狭まっていることが多いが、排泄の意思表示はもとより、そわそわ感や表情の変化を見落とさず、トイレへ誘導することで、徐々に排泄の自立へ向かった事例がある。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を毎日飲用してバナナも毎日食べて頂いている。 軽運動としてTV体操も毎日行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度決まっているが本人の希望で変更する事もある。	長風呂を好む利用者の場合、心配もあるが可能な限り支援している。また、同じ建物内にある小規模多機能型介護施設には、介護用の浴槽が設置されており、利用者の状態に応じて入浴が可能である。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動をしたりお昼寝をとり安眠して頂けるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬をファイルしている。お薬手帳も管理しておりすぐ確認できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピアノを弾いてもらったり、制作活動、縫物など本人に役割をもってもらい活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週買物に出掛けたり、計画なしでドライブに行ったりしている。	日曜日は事業所の台所で調理し食事を提供するため、毎週土曜日が買い物の日となっている。冬の間は、同じ建物内にあるデイサービスまで歩き顔を出す等、多機能な長所を活かし支援している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際、会計をお願いしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時にお礼の電話を本人からしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るくするよう努め、ソファを設置し、ゆっくりと過ごせるよう工夫している。	館内の装飾等は、全体的にシンプルな事業所である。しかし、居室の入り口毎に、利用者の家族が手作りしたリースが飾ってあったり、食事を食べるリビング周辺にのみ利用者と職員で作成した作品が展示されていたり、メリハリのある雰囲気の演出を感じさせた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き自由に座ってもらっている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの私物、TV、椅子などを置き、居心地良い空間作りをしている。	各居室にはベッドやチェスト、洗面台が設けられており、利用者が愛着のある道具等必要最小限の物で生活が始められるようになっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が自立した生活を送れるよう見守りしホーム内の安全管理をしている。		